

## 第2学年1組 音楽科学習指導案

指導者 三浦 由美  
場所 自教室

### 1 題材名 といと答えの音楽を楽しもう（8時間）

教材名 「おおブレネリ」（松田稔 作詞 スイス民謡）（歌唱）  
『くるみ割り人形』から「トレパーク」（チャイコフスキー 作曲）（鑑賞）  
絵本「ドオン！」（山本洋輔 文／長新太 絵）  
「リズムで心のキャッチボール〜」（音楽づくり）

学習指導要領との関わり

#### A表現

##### （1）歌唱

イ 歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと。

エ 互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。

##### （3）音楽づくり

ア 声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをすること。

イ 音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること。

#### B鑑賞

イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くこと。

〔共通事項〕ア (ア) リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れ

(イ) 反復、問いと答え

### 2 題材について

#### （1）題材の目標

- ・問いと答えの音楽の楽しさや面白さを感じ取って、聴いたり歌ったりする。
- ・友達の声や伴奏を聴きながら、自分の声を合わせて歌う。
- ・個々がつくったリズムモチーフをもとに、反復や問いと答えなどの音楽の仕組みを生かして簡単な音楽をつくる。

#### （2）題材観

児童はこれまでに、様々な楽曲と出会い学習を重ねてきた。そして、音楽の面白さを見付けながら鑑賞したり、よりよい表現にしよう工夫したりする中で、〔共通事項〕に示されている音楽を特徴づける要素に気付き、意識をもつようになってきた。そのため、拍のまとまりや拍子の違いを感じ取って、音楽に合わせて体を動かしながら思いをもって歌ったり、2拍子と3拍子の音楽の気分の違いを感じ取って聴いたりすることができるようになってきた。また、楽曲の中で強弱をつけると音楽の聴こえ方が豊かになることも、少しずつ感じてきている。

本題材では、〔共通事項〕の中の〔問いと答え〕に目を向ける学習に新たに取り組んでいこうと考えた。歌唱や鑑賞で〔問いと答え〕の面白さに気付き、それをもとにしながら簡単なリズムをつくる音楽づくりに発展させていきたい。

そこで、本題材では、まず「おおブレネリ」の歌唱教材を扱う。ここでは、歌のもつ情景や気持ちを想像して、思いをもって歌ったり、呼びかけ合う歌い方の工夫をしたりしていく。また、『くるみ割り人形』から「トレパーク」の鑑賞では、体全体で曲を感じ取らせながら聴くことで、〔問いと答え〕の音楽の仕組みに気付かせていく。〔問いと答え〕の音楽の仕組みでできていることに気付かせ、歌のもつ情景や気持ちを想像して、思いをもって歌ったり、呼びかけ合う歌い方の工夫をしたりしていく。

また、『くるみ割り人形』から「トレパーク」の鑑賞では、体全体で曲を感じ取らせながら聴くことで、〔問いと答え〕の音楽の仕組みに気付かせていく。また、リズムが同じ形で反復されていくことや、強弱、速度にも目を向けさせていきたい。そして、歌唱と鑑賞で学んだことを活かし、絵本「ドオン！」より、人の子「こうちゃん」とオニの子「ドンちゃん」が

二手に分かれてリズムで言い争う場面を取り上げ、自分でつくった簡単なリズムをもとに、[問いと答え]の仕組みを使って、グループで簡単な音楽をつくっていく。

このような活動を通して、[問いと答え]の音楽の仕組みのおもしろさに気付かせ、自分たちの音楽をつくっていく楽しさや喜びを味わわせたいと考えた。また、友達とコミュニケーションを図りながら、呼びかけ合って歌ったり、つくったリズムを合わせたりする楽しさや、ひとつのものをつくりあげる満足感を感じ取らせたい。

### (3) 児童の実態 (男子16名 女子18名 計34名)

本学級の児童は、4月に学級編制を行い2学年のスタートを切った。そのため、4月当初は、歌唱の声の出し方やリズム遊びなどの学習経験の違いが見られ、消極的な児童もいたが、今では、意欲的に音楽活動に取り組んでいる児童が多い。

#### ①歌唱について

歌うことが好きな児童が多い。曲に合わせて足踏みをしたり、手遊びをしたりすることなど、体を動かして歌うことも大好きである。1年生の時は自分表現の意欲が強いためか、声の出し方に気を付けて歌う児童が少なかったが、近頃では、発声に気を付けて歌うことを心がける児童が増えてきた。また、歌詞の様子を捉えて「こんなふうに歌ってみたい」という思いももてるようになってきている。

本題材で扱う「おおブレネリ」では、歌詞の情景を想像させ、表現の仕方を工夫させたい。また、友達とかけ合い[問いと答え]で歌う中、互いの声を聴き合い、自分の歌声に気を付けることができるようにしていきたい。

#### ②鑑賞について

鑑賞でも、曲に合わせて体を動かしたり、いろいろな楽器が出てくると楽しくなって反応したり、興味をもって聴いている児童が多い。本題材で扱う「トレパーク」は[問いと答え]の音楽の仕組みが明確に表れている楽曲である。その仕組みに気付かせるため、児童が好きな、音楽を聴き、体を動かして感じ取る活動を多く取り入れるようにする。

#### ③音楽づくりについて

教師や友達の打つリズムを模倣したり、拍の流れに合わせて言葉やリズムのリレーをしたりする音遊びを中心に行ってきた。模倣することには、抵抗なく取り組めるものの、自分で考えた言葉やリズムをリレーする場面になると、拍の流れに合わなくなってしまう児童も少なくない。そのため、初めは模倣でもよいという約束をすることで、自信をもって活動に取り組めるようになってきている。しかし、反復や問いと答えなどの音楽の仕組みを工夫しての音楽づくり経験はまだない。そのため、ここでは、簡単なリズムを自分で作り、それをグループで組み合わせるときには、音楽の仕組みを生かしてみんなで一つの音楽をつくりあげていく経験をさせたい。児童が楽しく音楽づくりに取り組めるようにするため、また、音楽を組み立てていくときのよきヒントにするため、絵本「ドオン！」を参考教材として扱うこととする。

#### ④絵本「ドオン！」の読み聞かせ後の感想

- ・タイコの音（ドカシャバ、ドコドコ、ドンドコドンドンなど）が面白い。
- ・けんかしているみたいだけど、楽しそう。
- ・タイコの音が歌みたい。
- ・突然みんなのタイコの音が「ドオン！」と合ったところが面白い。
- ・「またやろうね。」と言うことが楽しそう。
- ・最後に仲良くなってよかったね。
- ・次から次へとどんだんたたく人（オニ）が増えてきて不思議。でも、どんどん増えていったことが面白い。
- ・題名の「ドオン！」の意味が、最後まで読んでもらったらわかった。
- ・タイコの音がみんな違っているのが面白い。

- ・こうちゃんとドンちゃんが言い合いをして戦っているところが面白い。
- ・こうちゃんとドンちゃんがいたずらっ子で面白い。
- ・オニの世界と人間の世界がつながっているところが不思議だなあ。
- ・みんなの音が合わさって「ドオン！」と大きい音に変わったのが面白い。
- ・わたしもタイコで遊びたいな。
- ・最初はバラバラだったのに、最後に一斉に合ったところがいい。
- ・お父さんとお母さんは自分で追い出したのに、助けに行ったところは不思議だな。

感想を見ると、多くの児童が「こうちゃんチーム」と「ドンちゃんチーム」によるタイコのかげ合いの面白さや、お話が進むにつれ、応援の仲間がどんどん増えて盛り上がっていく面白さに気付いている。こうした面白さを音楽づくりにいかせるよう、自分達でも繰り返し音読し、そこから感じ取ったことを、強弱や速度の変化の工夫につなげていきたいと考える。さらに、絵本のいろいろなタイコの音を、自分でつくるリズムにも生かし、面白い言葉のリズムをつくらせていきたい。また、お話の最後にみんなのタイコの音が合って、仲良しになったこともよかったと感じている。一人一人が考えたリズムをつなぎ合わせ音楽をつくっていくことで、一人一人の大切さやみんなで一つのものをつくる楽しさ、一緒に表現する喜びを感じさせていきたい。

#### ⑤朝の会を利用した常時活動について

##### ○朝の歌

全校で取り組む難しい歌にも意欲的に挑戦して歌っている。毎朝歌うときに、教師が一緒に歌ったり、姿勢や発音、声の出し方をアドバイスしたりすることで、自分の歌声に気を付けて歌う児童が増えてきている。

##### ○拍の流れにのって健康観察

拍の流れを意識できるようにするため、毎朝の健康観察を8ビートのリズムに合わせて行っている。初めは、拍の流れにのることができなかった児童も多かったが、日常的に行っていることでほとんどの児童が、拍の流れにのって返事をしたり、友達の名前を呼んだりすることができるようになってきた。

##### ○リズムカレンダー

日直がリズムカレンダーをつくり、みんなで真似したり、打ったりする活動を日常的に行い、日頃からリズムに触れる機会を設けている。リズム打ちをするときには、タンやタタの言葉を言いながら打った方がやりやすいことに気付いてきた。しかし、4分音符や4分休符は簡単に打てても、8分音符や8分休符が出てくると戸惑ってしまうなど、まだ、リズム譜を読むことには慣れていない児童がいる。そこで、ここでの学習でも、初めから自分でつくるのではなく、普段から行っているリズムカレンダーを活用し、音符や休符が書かれたカードを自由に組み合わせてリズムづくりを行っていきたい。そして、それに、絵本に出てくるタイコの言葉をつけることで、記譜にこだわることなく、抵抗なく音楽づくりに取り組ませていきたい。

#### ⑥グループ活動について

本学級の児童は、日常の他の学習でもグループ活動を多く取り入れている。男女の仲もよく、穏やかであるのでグループ活動も熱心に行うことができる。音楽では、分担を決めて打楽器や鍵盤ハーモニカの演奏を行ってきている。しかし、曲の初めから終わりまで通して演奏することはできるものの、友達同士で意見を言い合ってよりよいものを目指したり、できないところを取り出して練習したりすることはまだできない。また、リーダーがリードしてグループ活動を行うことも、まだできないので、少しずつやり方を教えているところである。

#### (4) 指導観

第1次では、「問いと答え」の音楽の面白さに気付かせるために、歌唱「おおブレネリ」、鑑賞『くるみ割り人形』から「トレパーク」を教材として取り上げる。

「おおブレネリ」は、スイス民謡として親しまれ、男女の問いかけで始まり、互いに呼びかけ合ったりいっしょに合わせて歌ったりすることができる歌である。また、歌詞からスイスのきれいな山々の情景を想像して、どのように歌ったらいいかを考えながら歌うことができると思われる。そこで、相手の声をよく聴いてそれを受けて歌うことを大切に扱い、「問いと答え」の音楽の楽しさや面白さを実感させていきたい。また、かけ合いの組み合わせ方を工夫することで、互いの歌声をよく聴き合うようにさせていきたい。

『くるみ割り人形』から「トレパーク」は、チャイコフスキーのバレエ音楽「くるみ割り人形」の中の一曲である。同じリズムの繰り返しや、旋律を受けて別の旋律が答えている、「問いと答え」の音楽の仕組みを感じ取りやすい楽曲である。また、速度や様々な楽器が増えていくことで感じられる強弱の変化にも気付きやすく、最後にいろいろな楽器が重ね合わさって終わっているところも、本題材の音楽づくりをする上で有効であると考えた。音楽に合わせて体を動かすことで、問いと答えの音楽の仕組みを感じ取って聴くことができるようにしていきたい。

第2次では、絵本「ドオン！」より、人の子「こうちゃん」とオニの子「ドンちゃん」が二手に分かれてリズム遊びする場面を取り上げ、簡単なリズムをつくる活動に取り組む。絵本の中の面白いタイコ言葉を想起させることで、自分らしい楽しい言葉でリズムをつくらせていきたい。そのとき、普段から行っているリズムカレンダーをもとに、音符や休符が書かれたカードを組み合わせることで、リズムづくりを行っていく。そして、自分がつくったリズムに、絵本を参考にしながら楽しいタイコ言葉をつけていくようにしたい。そうすることで、自分なりの思いや意図をもって簡単なリズムづくりに挑戦させていきたい。さらに、つくったリズムをグループで持ち寄り、問いと答えや反復などの音楽の仕組みを生かした音楽づくりを行っていく。鑑賞で聴き取ったことや絵本で感じたことを生かして、強弱や速度の変化についても工夫できるようにし、自分たちだけの音楽をつくれるようにしたい。

このように、「共通事項」を支えとして、音楽づくりと歌唱や鑑賞のそれぞれの領域を関連させた題材を構成させることで、児童が主体的に音楽活動に取り組むことができると考える。また、音楽づくりに抵抗をもっていた児童も、「共通事項」を手がかりにすることで、共に一つのものをつくり上げていく楽しさを体験させていきたい。

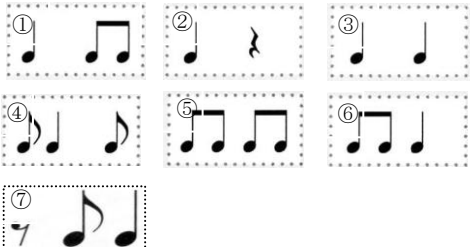
## 4 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
①歌詞の表す情景や気持ち想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。 ②問いと答えの音楽の仕組みのかかわり合いを感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。 ③問いと答えの音楽の仕組みや音を音楽にしていくことに興味・関心をもち、思いをもって	①問いと答えを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感知取りながら、歌詞の表す情景を想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりして表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願いをもっている。 ②リズム、強弱、速度を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感知取り	①友達の歌声や伴奏の響きを聴きながら、自分の声を合わせて歌っている。 ②問いと答えを生かし、音を音楽にしている。	①問いと答えの音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感知取りながら、問いと答えのかかわり合いを感じ取って聴いている。

<p>簡単な音楽をつくる学習に取り組もうとしている。</p>	<p>ながら、問いと答えや反復を生かし、音を音楽にしていくことをいろいろと試して、自分の考えや願いをもって簡単な音楽をつくる工夫をしている。</p>		
--------------------------------	--	--	--

## 5 題材の指導計画及び評価計画（8時間扱い）（本時6／8）

時配	ねらい ○学習内容 ・学習活動	教師の働きかけ	評価規準 評価方法
第1次 (4時間)	<p>ねらい 「問いと答え」の音楽の面白さを感じ取る。</p> <p>○互いの歌声を聴き合って歌い、問いと答えの音楽のおもしろさを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師やCDの範唱を聴いて、「おおブレネリ」を模唱する。</li> <li>・きれいな山々の情景を想像したり、曲の気分を感じ取ったりして歌う。</li> <li>・拍の流れを感じ取って楽しく歌う。</li> <li>・「おおブレネリ」を教師とみんな、一人とみんな、グループとグループでどのように呼びかけ合って歌い、声を聴き合う。</li> <li>・「問いと答え」の音楽の仕組みを意識して、それぞれの役割になりきり、体を動かしながら歌う。</li> <li>・強弱、速度など歌い方を工夫して、応答しながら歌う。</li> </ul> <p>○『くるみ割り人形』から「トレパーク」を聴いて、問いと答えの音楽のおもしろさを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を聴いて体を動かし、問いと答えの音楽の仕組みに気付く。</li> <li>・繰り返し体を動かして聴くうちに、「はじめ」「なか」「おわり」で、反復、強弱や速度の変化に気付く。</li> <li>・二手（AとB）にわかれて、楽曲の問いと答えに合わせて体を動かす。</li> <li>・全体を通して楽曲を聴き、音楽の面白さについて、言葉に表したり、感じ取ったことを発表したりし合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（発問）友達の声をよく聴きながら、それに応えるように歌いましょう。</li> <li>・友達に歌声を届けるように歌わせる。</li> <li>・二つのグループにわかれ、問いと答えを意識しながら歌えるよう、グループわけを工夫していく。</li> <li>・山々の情景を想像させ、思いをもって歌わせる。</li> <li>・「問いと答え」の音楽の仕組みが意識できるよう、歌詞に合うように体を動かしながら歌わせる。</li> <li>・強弱や速度などを工夫して、リズムにのって歌うようにする。</li> <li>・（発問）曲の中で、かけ合っているところを見つけながら聴きましょう。</li> <li>・同じ旋律のときは、同じ体の動きをさせる。</li> <li>・強弱や速度の変化に気付くようにしていく。</li> <li>・体を動かすことが苦手な児童には、教師や友達の動きをまねてもよいこととする。</li> </ul>	<p>関一①活動の観察 （表情、行動）</p> <p>技一①活動の観察 （表情、行動）</p> <p>創一①活動の観察 （表情、行動、発言）</p> <p>関一②活動の観察 （表情、行動）</p> <p>鑑一①活動の観察 （表情、行動、発言）</p>
	<p>ねらい 絵本をもとにリズムをつくり、問いと答えの音楽の仕組みを工夫して、簡単なリズムの音楽をつくる。</p> <p>○絵本「ドオン！」から、ドンちゃんやこうちゃんになって、簡単なリズムをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本に出てくる言葉を取り出し、リズム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（発問）ドンちゃんチームとこうちゃんチームになって、タイコ言葉（擬音）をつくりましょう。</li> </ul>	<p>関一③活動の観察 （表情、行動）</p> <p>創一②活動の観察 （行動、発言、演奏）</p>

<p>本 時</p>	<p>打ちする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• どんなお話にするか、グループで相談し、自分でなりきるもの（ドンちゃん、こうちゃん、動物など）を決めて、タイコ言葉をつくる。</li> <li>• 7枚のリズムカードから4枚を組み合わせて、自分なりのリズムをつくり、それに合うタイコ言葉をつくる。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>• つくったタイコ言葉を、言葉と手拍子で練習する。</li> </ul> <p>○自分でつくったタイコ言葉を紹介し、グループごとに音楽の仕組みを生かしながら、つなげていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 一人ずつ、自分のつくったものを紹介し合う。</li> <li>• どんなつなげ方をするか、音楽を面白くするための工夫をグループで相談し合う。</li> <li>• グループで「まねっこ」「おしゃべり」「いっしょ」などの方法を選び、どのような順序でつないでいけばよいかを考え、いろいろと試しながらグループの簡単な音楽をつくる。</li> </ul> <p>○グループごとに、発表会に向けてつなげた音楽の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• グループごとにつなげた音楽の練習をする。</li> <li>• 強弱や速度の工夫をする。</li> </ul> <p>○つくった音楽を発表し合い、互いの表現のよさを聴き合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分でなりきったもののタイコ言葉をつくり、それに合わせてリズム打ちさせる。</li> <li>• ドンちゃんチームとこうちゃんチームに分かれ、互いに「問いと答え」の音楽の仕組みを考えながらリズムづくりを行うようにする。</li> <li>• 7枚のリズムカードから4枚を組み合わせて、自分なりのリズムをつくるようにする。</li> <li>• 拍を手で打ちながら、つくったリズムを唱えながら練習し、気に入ったものを見つけていくようにする。</li> <li>• タイコ言葉がつかれない児童には、絵本の言葉からまねさせる。</li> <li>• (発問) 自分がつくったタイコ言葉をグループで紹介し、みんなのタイコ言葉をつなげましょう。</li> <li>• 友達のタイコ言葉をよく聴き合って活動できるようにしていく。</li> <li>• 模倣、対話、同時に音を出す等、ドオン!の絵本やこれまでの歌唱や鑑賞の学習を生かして、問いと答えの方法を取り入れるようにする。</li> <li>• 強弱や速度の工夫もできるようにしていく。</li> <li>• 話し合いだけでなく、音を出して試しながら活動していくようにする。</li> </ul> <p>○(発問) グループごとに、つなげた音楽の練習をしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 工夫することが表れるように意識して練習させる。</li> <li>• 拍の流れにのって演奏できるようにさせる。</li> </ul> <p>○(発問) グループの演奏を聴いて、どの音楽の調</p>	<p style="text-align: right;">の聴取)</p> <p>技一①活動の観察 (表情、行動、発言)</p> <p>創一②活動の観察 (行動、発言、演奏の聴取)</p> <p>技一①活動の観察 (行動、発言、演奏の聴取)</p> <p>関一③活動の観察 (表情、行動)</p>
----------------	--	--	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに発表し合う。</li> <li>・それぞれのグループが、どんな工夫をしているかを見つけながら聴き合う。</li> </ul>	<p>味が使われているか見つけましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の音を聴きながら、演奏させる。</li> <li>・問いと答えの音楽の仕組みに気付かせる。</li> </ul>	<p>技一①活動の観察 (行動、発言、演奏の聴取)</p>
--	---	---	-----------------------------------

## 6 本時の学習 (6/8)

### (1) 本時の目標

問いと答えの音楽の仕組みを生かしながら、タイコ言葉(擬音)をつなぐ順番を工夫して、自分の考えや願いをもって簡単な音楽をつくる。

### (2) 視点とのかかわり

【視点1】思いや意図を伝え合う活動の充実を図るために

#### ○〔共通事項〕で関連した指導計画の工夫

題材全体を通して、〔共通事項〕の中の〔問いと答え〕の音楽の仕組みに関連した楽曲を選び、指導計画を工夫した。歌唱、鑑賞、音楽づくりの活動を通して、〔問いと答え〕の音楽の仕組みを追求していくようにすることで、その面白さを感じ取るようにしていきたい。そして、第2次の音楽づくりでは、歌唱や鑑賞で感じ取った〔問いと答え〕の音楽の仕組みが生かされるようにしたい。そうすることで、児童は、既習の学習を生かし、意欲的に自信をもって音楽づくりを行うことができるようになる。

#### ○友達とのかかわり

歌唱で友達とかけ合いながら歌ったり、鑑賞で二手にわかれ、楽曲の〔問いと答え〕に合わせて体を動かしたりなど、友達とのかかわりを通して〔問いと答え〕の音楽の仕組みの面白さを感じ取らせていく。また、音楽づくりでも、一人一人がつくったタイコ言葉(擬音)を、友達との意見交換の中でつなげたり合わせたりして一つの音楽をつくる活動を行う。友達とのかかわりの場を多く設定することで、自然に音楽の仕組みを生かした音楽づくりができるようになる。また、互いの音をよく聴き合うことにもつながっていくと思われる。さらに、友達といっしょに一つのものをつくり上げていく楽しさを味わわせたい。

#### ○絵本「ドオン！」をもとに

本学級の児童は、リズムを音符に表すことがまだできない。そのため、絵本「ドオン！」のタイコ言葉(擬音)をもとに音楽づくりを行う。絵本の中の面白いタイコの言葉を想起させることで、自分らしい楽しい言葉でリズムをつくらせていきたい。そのとき、7枚のリズムカードの中から4枚を自由に組み合わせるリズムづくりを行っていく。そして、そのつくったリズムに絵本の楽しいタイコ言葉を参考にしながら、言葉をつけていく。また、このお話も、人の子「こうちゃん」とオニの子「ドンちゃん」が二手に分かれてリズムで言い争いをするという、〔問いと答え〕の音楽の仕組みに合ったお話である。そのため、「こうちゃんチーム」と「ドンちゃん」チームにわかれて、ペアでリズムづくりを行う。そうすることで、互いが〔問いと答え〕の音楽の仕組みを意識してリズムづくりを行うことができるようになる。さらに、カードを並べれば音楽になるので、作品ができあがったという達成感を味わわせながら、抵抗なく音楽づくりに取り組めると思われる。また、どんどん人数が増えていき、最後はみんなのタイコの音が「ドオン！」と合わさり、仲良しになってお話が終わる。この話のつくりも、音楽づくりをするときの参考にさせていきたい。

(3) 本時の展開

時配	○学習内容・学習活動〔共通事項〕	○教師の働きかけ ◆評価規準
3分    2分	<p>1 二人組になって「おおブレネリ」を歌う。 ・「といちゃん」(問い)「こたちゃん」(答え)の役割を決める。</p> <p>2 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを立てる。</p>	<p>○「といちゃん」と「こたちゃん」の役割を決め、体を動かしながらなりきって歌うことで、〔問いと答え〕の音楽の仕組みを意識させ、楽しい雰囲気づくりをする。</p> <p>○相手の声をよく聴き、相手に届けるようにして歌ったり、それに答えるようにして歌ったりするように声をかける。</p> <p>○前時は、ドンちゃんチームとこうちゃんチームにわかれて、一人ずつタイコ言葉(リズム)をつくったことを確認し、本時のめあてに導く。</p>
<p>自分がつくったタイコ言葉をつなげて、といと答えの音楽をつくろう。</p>		
5分          25分	<p>3 つなげ方を確認する。 ・問いと答えの仕組みをつかかって ・間があかないように ・拍にのって</p> <p>4 グループになり、自分でつくったタイコ言葉を音楽の仕組みを生かしながら、つなげていく。 ・初めは、個人がつくったリズムを紹介し合う。 ・リズムモチーフをつなげ、拍の流れにのって演奏できるよう練習する。 ・リズム打ちをして試しながらつくる。 ・音楽を盛り上げていくための方法を考える。</p> <p>[リズム、速度、強弱、拍の流れ、反復、問いと答え]</p>	<p>○既習の歌唱や鑑賞の学習を振り返り、模倣や反復など〔問いと答え〕の音楽の仕組みを使って音楽づくりをしていくことを確認する。</p> <p>○リズムとリズムが拍の流れにのって演奏し、間が開かないように気を付けながら演奏できるよう支援する。</p> <p>○自分がつくったタイコ言葉を紹介し合ってから、話し合いを進めていくようにする。</p> <p>○まねっこ、おしゃべり、いっしょになど、既習の歌唱や鑑賞の学習を想起させながら、音楽の仕組みを意識してつなげられるようにする。</p> <p>○自分たちのグループの「ドオン！」の話の流れに合わせて、それに合わせたリズムのつなぎ方を考えてもよいこととする。</p> <p>○つなげられたグループには、強弱や速度の工夫もしてみるように促す。</p> <p>○各グループをまわり、拍の流れにのって演奏できるよう適宜支援していく。</p> <p>◆創一②活動の観察 (行動、発言、演奏の聴取)</p> <p>Aと判断される児童の学習状況…グループの中で、自分の考えを積極的に話し、問いと答えを生かしながら進んでつなぎ方を考え、リズムを打って試している。さらに、強弱や速度の音楽的な効果についても発言している。</p> <p>Cと判断される児童の学習状況…自分がつくったリズムをどのようにつなげたい</p>



5分	<p>5 工夫が表れているグループの演奏を聴き合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏を聴き、どんな音楽の仕組みを使っていたか、気付いたことやよかったことを伝え合う。</li> </ul>	<p>いかわからなかったり、迷ったりしているときには、教師が話し合いに入り、いっしょにリズムをたたいたり、つなげ方のヒントを助言したりして進めていくようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○どんな音楽の仕組みを使って、つなげているかを見付けながら聴き合うようにする。</li> <li>○教師が拍を取りながらいっしょにリズムを口ずさむなどして、友達と拍の流れのって演奏できるように支援する。</li> <li>○よい工夫をしているグループを見つけ出し、発表の準備をさせておく。</li> </ul>
3分	<p>6 代表のグループの作品を、みんなで演奏してみる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○工夫が表れているグループの演奏をまねさせることで、よさを共有し、自分たちの演奏に生かせるようにする。</li> </ul>
2分	<p>7 振り返りをし、今後の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代表のグループの作品を演奏した感想を話す。</li> <li>・本時のめあてに対する振り返りをし、今後の活動について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分たちのグループと比べて、よいところやまねしてみたいところを発表させ、自分たちのグループの参考になるようにしていく。</li> <li>○次時は、さらに練習をして深め、発表会への意欲をつなげる。</li> </ul>